

各位

2018年11月1日

株式会社アプリックス

(コード番号:3727 東証マザーズ)

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科主催「KMD FORUM 2018」に出展

～ 「groma™(グローマ) AprilTag ソリューション for SDM」による

ARを使った音の定位変化デモを体験可能 ～

IoT(Internet of Things)製品向けソリューションの開発を手掛けるアプリックス(本社:東京都新宿区、代表取締役兼取締役社長:長橋賢吾、以下「アプリックス」)は、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科(KMD)が2018年11月2日(金)から開催する「KMD FORUM 2018」の Software Defined Media (SDM) ブースに、「groma™(グローマ) AprilTag ソリューション for SDM」を出展します。SDM ブースでは、AR(Augmented Reality:拡張現実)を使って音の定位(空間的位置)を変化させるデモを行います。来場された方はこのデモを実際に体験していただくことが可能です。

<展示の背景>

アプリックスでは現在、屋内測位/位置情報システム市場向けソリューション「groma」の研究開発を鋭意進めています。自社で研究開発を行う一方、屋内測位システムや屋内電子地図情報などを提供する企業、大学などの研究機関、および各種 IT サービスを提供する企業とのアライアンスを強化しています。

その一環でアプリックスは今年から、オブジェクト志向のデジタルメディアや視聴空間サービスのソフトウェア制御などの研究を行っている Software Defined Media ワーキンググループ(以下「SDM-WG」)に参加しています^{*1}。KMD はアプリックスと同様に SDM-WG のメンバーです。

<「groma AprilTag ソリューション for SDM」について>

アプリックスが「groma」の第1弾として2018年6月に発表した技術^{*2}が、「groma AprilTag ソリューション for SDM」です。

「groma AprilTag ソリューション for SDM」では、SDM-WG メンバー企業によって構成された立体音響再生システムに、アプリックスの位置情報検知ソリューションを組み込んでいます。また AR マーカーには、3次元空間上の位置や姿勢を、画像から正確に計算できる「AprilTag^{*3}」を利用しています。

「KMD FORUM 2018」では、AR マーカーを6面に貼り付けた立方体(右写真)を使い、立体音響再生システムにおいて再生される音の定位が、立方体の動きに応じて変わるデモを体験できます。



「groma AprilTag ソリューション for SDM」デモで使用する立方体

<展示ブースについて>

イベント名称:	KMD FORUM 2018
日時:	2018年11月2日(金)10:00(10:00 オープニングセッション、展示など 12:00-)～18:00 2018年11月3日(土)10:00～18:00 ※デモが体験できる時間は、11月2日(金)は12:00～17:30、11月3日(土)は10:00～18:00です。
会場:	慶應義塾大学日吉キャンパス協生館(横浜市港北区日吉4-1-1)
イベント詳細:	KMD FORUM 2018 開催のお知らせ: https://www.kmd.keio.ac.jp/ja/news/2018/07/kmd-forum-2018-on-november-2-and-3.html
ブース名称:	SDM ブース(WANDERING CITY & TALK SESSION エリア内)

<「KMD FORUM 2018」について>

イノベーションを自ら生み出し社会に向けて価値を創出する能力を持つ「メディア・イノベータ」の育成をミッションとしている KMD が、各年度に 1 回、リアルプロジェクトの研究成果を、対外的に発表する場として設けているイベントです。シンポジウム、ワークショップ、インタラクティブデモなどのプログラムが提供されています。

「KMD FORUM 2018」では設立 10 年を記念して、Journey (ジャーニー、旅) をテーマとして KMD の 10 年間の軌跡、様々なプロジェクトの軌跡、学生や修了生の軌跡を旅に喩えて展示、トークショー、ワークショップが行われます。また、KMD の次の 10 年のジャーニー計画について発表されます。

[KMD Web サイト] <https://www.kmd.keio.ac.jp/ja/>

- ※1 **SDM-WG**: 広域にわたる大規模な分散コンピューティング環境を構築する技術の確立等を目的として活動している「WIDEプロジェクト」のワーキンググループの1つ。オブジェクト志向のデジタルメディアや視聴空間サービスのソフトウェア制御などの研究を行っている。アプリックスはWIDEプロジェクトとSDMに参加している。詳細は5月31日付プレスリリース「産官学共同の研究プロジェクト「WIDEプロジェクト」に参加 ～ 「WIDEプロジェクト」のワーキンググループ「SDM」についても併せて参加 ～」参照。
[SDM Webサイト] <http://sdm.wide.ad.jp/>
- ※2 詳細は6月11日付プレスリリース「屋内測位／位置情報システム市場向けソリューション「groma(仮称)」発表 ～ 第1弾「groma AprilTagソリューション for SDM」をInterop Tokyo 2018に参考出展 ～」参照。
- ※3 **AprilTag**: アメリカ ミシガン大学の AprilTags Visual Fiducial System プロジェクトで開発された座標基準マーカー。普通のプリンタで印刷したARマーカーの3次元空間上の位置や姿勢を、画像から正確に計算することができる。
[AprilTag Webサイト] <https://april.eecs.umich.edu/software/apriltag.html>

以上

■株式会社アプリックスについて

アプリックスの使命は「ソフトウェアの力で世の中のあらゆる人々に幸せをもたらすこと」です。携帯電話でのJava利用という新しいフロンティアを切り開いた「JBlend」に続き、開拓中の分野が、IoTです。当社ではIoTモジュール(ビーコン)、スマホアプリ、クラウドサービス等のIoTソリューションを一貫して提供することで、家電製品等のIoT化を推し進め、「モノからの通知によって人々の生活を豊かにする」というコンセプトの実現を目指しております。

アプリックスのwebsite(投資家情報等): <https://www.aplix.co.jp/>

アプリックスのテクノロジー事業: <https://business.aplix.co.jp/>

■お問い合わせ先:

お問い合わせのページ: <https://www.aplix.co.jp/inquiry/>

※記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。